

放送日： 平成 20 年 3 月 16 日

タイトル： 手のふるえについて

担当者： 医師 布留川 郁

こんにちは。公立甲賀病院内科の布留川です。

今回は、手のふるえについて話をさせていただきます。

ふるえは医学用語では「振戦」といいます。

その振線は安静振線と動作時振戦の2つに分けられます。

安静時振戦は、手を動かさずにじっとしている時にふるえる振戦で、動作時振戦は手を上げたり動かしたりする時にふるえる振戦です。

まずは安静時振戦についてお話します。

安静時振戦は、椅子に座っていて手を膝の上に置いている時、人との立ち話をしている時、歩いている時によく出現します。自分では手のふるえに気付かないことがあり、他人に手のふるえを指摘

されて初めて気付く場合があります。安静時振戦はその名の通り安静時に出現するため、手を動かすと減弱または消失します。そのため、手のふるえそのものが日常生活に支障をきたすことはまれです。

安静時振戦が最もよく認められるのはパーキンソン病です。

パーキンソン病とは、ふるえ・動作緩慢・歩行障害等が出現する病気です。現時点では病気の原因は不明で、病気は徐々に進行してゆきます。

パーキンソン病にみられる安静時振戦は通常は体の片側から始まります。病気が進行するにつれ、両側になります。

パーキンソン病の治療は、薬物治療が主体ですが、手術による治療もあります。

それらの治療により振戦は減弱～消失します。

次に、動作時振戦についてお話します

動作時振戦は姿勢時振戦と運動時振戦の2つに分けられます。

姿勢時振戦は手を前にまっすぐ伸ばした時に強くなる振戦です。

姿勢時振戦は、生理的振戦・本態性振戦・甲状腺機能亢進症・慢性アルコール中毒・変形性頸椎症・代謝性障害（低血圧・肝臓病・腎臓病・薬剤・中毒）・その他の脳脊髄障害等が原因で起こります。

わかりやすく言いますと、ふるえやすい体質によると考えてよい場合と、病気が隠れている場合があるということです。そのため、姿勢時振戦が認められた場合には、まずその原因が何かを調べるのが大切です。そして病気が隠れている場合にはその治療が必要です。

姿勢時振戦で代表的なものは、本態性振戦です。具体的には、字を書くときやカップに

入った紅茶を飲むとき等に手がふるえるのは本態性振戦であることが多いです。そのため、日常生活に支障をきたすことがあります。治療には主として薬物治療が行われます。

運動時振戦は運動を行っているときに生じる振戦のことをいいます。運動時振戦が認められた場合は、脳に病気が隠れていると考えられるため、検査が必要です。

本日の話をまとめますと

- 1) ふるえ（振戦）には大きく、安静時振戦と動作時振戦がある。
- 2) どちらであっても元来病気が隠れている可能性があるため、ふるえを自覚したら病院を受診する必要がある
- 3) 薬物治療により症状が軽快することがある。
ということです。

ご静聴ありがとうございました。